

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                |
|-------|----------------|
| 法人名   | 株式会社チャイルド・ピース  |
| 施設名   | 小鳩スマート保育所北馬込   |
| 施設所在地 | 東京都大田区北馬込2-1-1 |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

にぎる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日々の遊びの中で、子どもは指先や手のひらを使いながら、玩具や身近な素材を繰り返し握り、感触や重さの違いを楽しむ姿が見られる。少人数で過ごす保育環境の中で、保育者が近くで見守りながら関わることで、子どもは安心して手や指を使い、素材に触れようとしている。「にぎる」という動きは、1・2歳児にとって、興味をもったものに自ら関わろうとする自然な姿であり、触る・確かめるといった経験を通して、気づきや試しを繰り返す様子が見られる。柔らかい、硬い、重い、軽い、冷たい、温かいなど、素材の違いを“握る”ことで感じ取る体験を日常の遊びの中で大切にしていきたい。室内での遊びや生活の中で、さまざまな素材に触れる機会を保障し、子どもの気づきや驚き、表情やしぐさに表れる思いを保育者が丁寧に受け止めながら関わっていけるよう、本テーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

スポンジ遊び…1回

泡遊び…1回

春雨遊び…1回

粘土遊び…2回

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

スポンジや泡を使った遊びでは、複数の場所を設け、子どもが分かれて関われるようにした。スポンジや泡、水を用意し、握る・押す・すくうなどの感触を味わえるようにした。

春雨を使った遊びでは、事前にアレルギーの確認を行ったうえで実施し、戻した春雨に触れられるようにした。また、皿やコップ、鍋などのままごと用の道具を用意し、春雨や素材を入れたり混ぜたりできるようにした。粘土遊びでは、色や硬さの異なる粘土を準備し、ちぎる・丸める・伸ばすなどの動きを通して関われるようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### 【②問いを考える】

泡や春雨、スポンジ、粘土等の素材に触れながら、「どんな感じがするかな」「握るとどうなるのかな」と問いかけ、感触や形の変化への関心を引き出した。

###### 【③環境をデザインする】

泡や春雨、水、スポンジ、粘土等の素材を用意し、複数のタライを配置して活動スペースを確保した。素材の特性に応じた安全面に配慮し、繰り返し試しながら遊びを広げられるよう環境を整えた。

###### 【④探究活動を実践し、記録する】

泡や春雨、スポンジ、粘土等の素材を手で握ったり混ぜたり伸ばしたりしながら、感触や形の変化を確かめる活動を行った。活動の様子は写真で記録するとともに、子どもの発言や表情をメモし、振り返りに活用できるようにした。

###### 【⑤振り返る・共有する】

カリキュラム会議やすくわく会議において活動内容を共有し、記録をもとに子どもの姿や支援の在り方について振り返った。また、職員間で気づきを共有し、次の活動に生かした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

スポンジ遊びでは、水を含ませて握る中で、水があふれ出る様子や、乾いた状態との重さの違いに触れながら関わる様子があった。握った際に落ちる水をタライにためたり、力の入れ方を変えて水の出方を試したりする場面も見られた。

春雨遊びでは、戻した春雨に触れながら感触を確かめ、他児の関わりを見て模倣する姿も見られた。ままごとの包丁やお玉などの道具を使い、切る・すくうなどの動きを取り入れた遊びへとつながっていた。

粘土遊びでは、握る・こねることで硬さが変化することに触れながら形を作り、食べ物や動物などに見立てて扱う様子が見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

スポンジや春雨など身近な素材を用いることで、子どもの興味が引き出され、遊びが広がっていく様子が見られた。粘土遊びでは、特に集中して関わる子が長い時間黙々と取り組み、満足するまで遊び込む姿が見られたことから、集団での活動だけでなく、一人一人がじっくり関わる遊びの大切さを感じた。また、春雨を用いた遊びでは見立て遊びへと発展する場面も多く、素材を通して遊びが広がっていく様子が見られた。